

第2学年「きらめきタイム」学習活動案

日 時 平成17年10月5日（水）2時間目

場 所 2階 2年B組教室

学 級 2年B組 男子16名 女子14名 計30名

指導者 教諭 柳川千尋 阿部伸泰

1 単元名「 私たちと社会～福祉・ボランティアから社会を見つめよう～ 」

2 単元のねらい

本単元のねらいは、「福祉・ボランティア」の視点で社会を見つめ・考え・調査する活動を通して、将来における「福祉・ボランティア」の在り方について考える力を身に付けることと自ら設定した課題を解決するための具体的な活動の見通しを立て、主体的に課題追求学習に取り組む態度を身に付けることである。

本単元の学習テーマを設定する前に、「福祉・ボランティア関連記事」・「音楽療法～ミュージックセラピー～」・「ユニバーサルデザイン～社会にやさしいデザイン～」・「高齢者の食事について」の4分野において「福祉ボランティア」に関する課題発見のための体験活動や情報提供のための学習を実施する。この課題発見学習を経て、本単元の課題追求学習を行うが、本テーマ決定前に仮調査時間を確保する。仮調査活動時間を確保することにより、自分の立てた仮テーマについての本調査が可能かどうか、今後の活動のための見通しを持たせたい。このような活動の見通しを立てることにより、各自のテーマの絞り込みが可能になり、主体的に調査活動に取り組むことができるのではないかと考える。各自のテーマが決定したら、自己の課題解決の為に必要な情報を収集・整理して活用することができるよう指導者が支援する。更に、調査結果をもとに自分の考えをまとめ、相手に分かりやすく伝えるために、どのように表現すればよいか、まとめ方や発表の仕方を工夫させる。

以上のような学習活動を通して、「福祉・ボランティア」について、より身近な問題として捉え、社会との関わりを考え自分なりの意見を持つことができるようにさせたい。

3 単元について

(1) 生徒について

「福祉・ボランティア」について知っていることを問うと、募金活動や災害時の救援活動などマスメディアでよく見聞する事柄を挙げる生徒が多い。つまり、「福祉・ボランティア」に関する漠然とした理解にとどまっている生徒が多いと考えられる。ただ、長期休みに実際に福祉体験活動に参加する生徒もおり、「福祉・ボランティア」への関心は決して低くはなく、生徒たちの事前調査からも多様な興味関心を持っていることが分かっている。このことから、一人ひとりの「福祉・ボランティア」への関心はあると考えられるので、各分野からの専門的な情報提供をすることで「福祉・ボランティア」についての考えが広がるのではないかと考えた。そこで、テーマ設定段階の支援を大切に、各自のテーマの絞り込みをさせ、調査の目的や身通しを明らかにさせた上で調査活動に取り組ませたい。このような調査活動を通して「福祉・ボランティア」の視点で社会を見つめ、将来における「福祉・ボランティア」の在り方について考える力を育成したい。

(2) 単元の構想について

「福祉・ボランティア」をキーワードとして、課題発見学習を経て、仮テーマ設定を行った。仮テーマについては、十分な調査活動が行えるかどうか、また課題追究するにふさわしい内容であるかを調査方法等も含めて検証させる。検証にあたっては、他者からの指摘や意

見をもとに内容を練り上げていく。本調査では、調査方法を工夫し、課題解決のために必要な情報を収集・整理する。調査活動を経て分かったことは、凝縮ポートフォリオ形式でまとめ、発表させる。

指導にあたっては、ティームティーチングを導入し、調査活動時における支援態勢の充実を図る。また、生徒一人ひとりが取り組む課題解決学習の活動内容によって、教科で育まれた様々な能力を活かしながら展開できるように指導・助言を行いたい。

評価については、課題設定・課題解決の計画書、調査活動や話し合い活動の様子、ポートフォリオなどの内容を1時間ごとに蓄積している。学習段階ごとに各自の学習の振り返りを適宜行わせながら、自ら設定した課題を解決するための具体的な活動の見通しを立て、主体的に課題追究学習に取り組む態度を身につけさせたい。

(3) 活動計画と評価規準（総時間数34時間）

(3) 活動計画と評価規準 (総時間数 3 4 時間)

学習の段階	数 数	活動内容	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
課題発見	12	「福祉・ボランティア」について様々な課題を見つける。	様々な領域からの「福祉」を考え、自分の課題を見つけようとしている。			学んだ内容がどのように「福祉」と関わっているか知ることができる。	
課題 追 求	仮調査	2	・課題発見学習から得た情報をもとに、仮テーマを考える。 ・本テーマを決定し、仮調査をする。	各分野で興味関心のある内容の仮テーマを作ろうとしている。		「福祉」について考えながら、自分のテーマを作ることができる。	
	テーマ 設定 (1/3 本時)	3	・テーマから活動の見通しをたてる。 ・個人の調査計画書を作成する。 ・決定したテーマや調査計画書を吟味し、修正する。		課題追求の見通しを持ち、テーマに適した方法を考えることができる。	調査活動の計画を作成することができる。	
	本調査	6	個人、グループの調査活動計画に基づいて、本調査を行う。	課題追求の見通しを持ち、計画書に従って調査活動しようとしている。	自他の意見を参考にし、「福祉」に関して自分なりの意見を持って調査できる。	テーマに適した調査方法を考え、工夫しながら、調査活動することができる。	調査活動を通して、「福祉」をより身近な問題として考えることができる。
	まとめ	6	調査内容を、個人またはグループ内でまとめる。			調査結果や自分の考えを相手に正確に伝えるために、まとめ方を工夫することができる。	
	発表	4	・発表の形式を決め、発表準備をする。 ・相手に分かりやすく伝えるように工夫しながら発表する。 ・他者の発表から分かったことなどをまとめる。		他の発表から「福祉」に関して自分なりの意見を持つことができる。	調査結果や自分の考えを相手に正確に伝えるために、発表の仕方を工夫することができる。	共通のテーマを意識しながら、他者の発表を聞いて更に「福祉」への考えを深めることができる。
	評価	1	学習活動の内容を振り返り、自己評価、他者評価をする。	学習活動をふりかえって、自分がどのように学習に取り組んだか、考えようとする。			学習活動を通して「福祉」への認識がどのように変化したか、振り返ることができる。

4 本時の活動

(1) 活動名「自分のテーマに合った調査や活動の見通しをたてよう。」

(2) ねらい 調査や活動の見通しをたてることができる。

(3) 評価規準と支援

観点	評価規準「評価方法」	支援を要する生徒への手だて (支援方法)
思考・判断	課題追求の見通しを持つことができる。 「観察法・記録法」	提示した方法を当てはめながら個別指導する。

(4) 展開

段階	形態 時間	学 習 活 動 ()	指導上の留意点 (・)	評価 () 支援を要する生徒へ の手だて
導 入	一斉 (5)	1 前時の学習内容の確認をする。 2 本時の学習と目標を確認する。	・意見交流し、自己の活動の見通しを持つ学習であることを理解させる。	
		自分のテーマに合った調査や活動の見通しをたてよう。		
展 開	一斉 (15)	3 T1, T2のロールプレイングを見て意見交流をする。 教師が立てた活動計画について、考えたことや気付いたことなどを意見交流する。 活動内容を具体的に考えるように、掲示しながら発表する。	・ロールプレイングを通して、自己の活動の足りない部分に気付かせる。 ・様々な質問がたくさん挙がるように補助的な発問をする。	
	個人 (15)	4 調査、活動への見通しをたてる。 自分のテーマについて活動の流れを考え、原案に気付きや足りない部分を書き込む。	・3の意見交流をもとにして、自己のテーマの活動内容を具体的に考えさせる。 ・自己の気付きが分かるように記入させる。 ・テーマ毎に多様な方法に気付かせるよう机間指導する。 ・T1, T2は、考えがまとまらない生徒に対してそれぞれ支援する。	課題追求の見通しを持つことができる。 (思・判) 提示した方法を当てはめながら個別指導する。
	一斉 (10)	5 提示された良い例をみる。 紹介した例を見て、良い点を参考にし、自分の計画を確認する。	・T1, T2はそれぞれ良い書き込みをしている活動案を紹介し、生徒が自己の活動と比較できるようにする。	
終 末	一斉 (5)	6 次回の学習内容の確認をする。	・次回の学習内容を提示し、学習活動の見通しを持たせて意欲付けをする。	